

○ チョウカイチングルマに就いて (佐藤正己)

Masami SATO: Notes on *Sieversia pentapetala* var. *dilatata*

Takeda et Honda.

山形・秋田兩縣に跨り、東北地方第一の高さを誇る鳥海山には數々の珍らしい高山植物を産するが、最近更にチングルマの變種としてチョウカイチングルマが新に追加された。その原記載は餘り一般的でない出版物⁽¹⁾に發表されているので、此處に再録して置く。

Sieversia pentapetala var. *dilatata* Takeda et Honda - Petala dilatata, apice truncata vel truncatella, obtriangulata, saepe lobulata.

Nom. Jap. Chōkai-chinguruma.

Hab. Honshū: in monte Chōkai, prov. Uzen (H. Takeda et M. Honda, anno 1948-typus in Herb. Univ. Tokyo.). Planta endemica.

本變種は山形縣側の登山口の一つである蕨岡口の七合目河原宿の石室の近くで武田久吉博士が発見されたもので、お伴した筆者も附近に群生していた普通のチングルマと比較検討することが出来た。この新變種は原記載にある通り、花瓣の先が扇形に展開し、殆んど截形又はそれに近い形を呈し、花はチングルマよりも一廻りだけ大きい。

筆者が其後に東京大學と國立科學博物館の腊葉で調べたところによれど、チョウカイチングルマは南は飯豊山から八甲田山などの東北の諸高山から北は千島列島の占守島まで分布していることが分つた。チングルマの原記載も基準標本も見えない筆者がこれ以上立ち入った議論をすることは控えた方がよいかも知れないが、チョウカイチングルマの方が學名の基準型で、中部山岳に多い小さい花の所謂チングルマこそ却つて變種として區別さるべきものであると思われる。なお越中立山に産するベニバナチングルマ var. *rosea* Nakai の花瓣は普通のチングルマよりもずっとチョウカイチングルマの方に近く、大形で扇形である。

(1) 本田正次: 出羽の山々で見た植物 (朝日・月山・鳥海, 59-60 頁, 1949)。この出版物には出羽國立公園候補地學術調査報告書の副題があり、他に田村 勇、武田久吉、佐藤久、安齋徹、齋藤孝藏、佐藤正己、阿部襄氏等の論文がある。山形縣鶴岡市公民館の發行、頒價 250 圓。